

甲斐市立竜王南小学校 自己評価書（前期）

平成22年7月16日（金）作成

学校長 千野 文雄

記述者 職名： 教頭 白倉 三正

◇ 本年度の学校教育目標

『豊かな心を持ち、主体的に活動できる子どもの育成』

○ 具体目標（めざす子ども像）

- * 徳育 ・心豊かで、思いやりのある子ども
- * 知育 ・よく考え、進んで学習する子ども
- * 体育 ・たくましく、ねばり強い子ども

☆ 合い言葉

やる気・こん気・げん気

◇ 本年度の経営方針（教育目標達成の手立て）

- (1) 徳育の充実
①望ましい人間関係や生き方の基礎を培う生徒指導に努める。 ②豊かな心の育成に努める。
- (2) 知育の育成
①適切な教育課程の編成と実施に努める。 ②個に応じた学習指導に努める。
- (3) 体育の充実
①自他の生命いのちを大切にすることの育成に努める。
②自ら体力を向上させようとする意欲の向上に努める。
- (4) 教職員の指導力、人間力の向上に努める。
- (5) 開かれた学校づくりに努める。

◇ 本年度の指導重点と具体的な取組

- (1) 徳育の充実に関して
①あいさつ運動の推進による笑顔あふれる学校づくり ②生徒指導の充実による児童理解
- (2) 知育の充実に関して
①校内研究による職員の授業力向上 ②読書活動の推進
- (3) 体育の充実に関して
①芝生のグラウンドを活用した特色ある体育活動
②児童活動を生かした健康づくりの取り組みの推進
(児童会本部・体育委員会・給食委員会・保健委員会)
- (4) 教職員の指導力、人間力の向上に関して
①職員会議、校内研究等の機会を活用しての情報交換、知識取得
②教職員評価制度を活かした自己研鑽
- (5) 開かれた学校づくりに関して
①学校だより、学年だより等による情報発信 ②地域人材の活用の推進 ③学校開放日の設定
④保護者向けアンケートの実施による行事内容の改善

I 全体評価

本校では、平成21年度末人事異動により、教職員の約3割の転出入となったため、平成22年度当初に教育活動及びその他の学校運営に関する事項について、一人ひとりの職員がその職務に応じて取り組みがなされるよう、職員会議で校務分掌を確認し、教育実践に結びつけられるようにしてきた。ついで、前期の教育活動及びその他の学校運営に関する事項について、教職員の自己評価や児童アンケートの回答から、学校経営や教育活動全体について概ね良好であり、本年度の学校経営方針が職員に理解され、教育目標の実現に向けて取り組まれていることが伺える。

また、危機管理マニュアルについては、ほぼ理解している職員が多いが、異動等もあり完全に理解しているとはいえない状況にある。折に触れて研修し、個々の職員の意識を高めたい。

公簿や文書及び記憶媒体の適切な管理と活用については、個人情報保護と情報セキュリティの観点から、保管方法等の改善を図ったことにより、職員一人ひとりの意識の向上が伺える。

児童の学校生活にかかわることでは、その一つとして「学校が楽しいですか」という問いに、全校児童の多数が「とても楽しい(58.8%)」、「楽しい(33.6%)」と回答しており、学校生活を肯定的にとらえている。しかし、中学年や高学年になるにつれ、友人関係、学習への理解や生活面での約束などの課題が出てきている。2学期は、全職員が一つになって子ども達の成長を促していきたい。

II 各項目ごとの評価

項目Ⅰ 学校教育目標・学校経営について

達成状況

①ほぼ全員の教職員が、学校教育目標及び学校経営方針に基づいて、本校の教育活動の合い言葉でもある「やる気・こん気・げん気」の児童へのよりよい教育活動に、日常的に取り組んでいることが伺える。また、児童アンケートからも、全校児童の約92%が「学校が楽しい」と答えている。

②PDC Aサイクルを生かした教育活動への取り組みが、昨年度から学校評価を生かしたよりよい学校改善に取り組む全職員の理解が図られるようになってきている。このことは、「そう思う」と「ややそう思う」で100%であることが物語っている。しかし、今後は、組織全体に渡るPDC Aから職員一人ひとりの取組によるPDC Aが必要になってくると感じている。

③職場の福利厚生や健康管理については概ね良好ではあるが、職員の心身の健康保持と増進を図ることにより、職員の活性化や勤務意欲の向上を通じて、児童の健全な育成を図るなど、本校の教育の振興を支える一役を担っている。しかし、教育現場は、あまりにも日々の出来事が過密で多忙であるため、ややもすると余裕を失っていることを職員が感じている。そこで、今後も職員の健康の保全・増進が図られるよう、一人ひとりの職員間のより一層の連携の充実に努めることが必要と考えられる。

改善策

・学校経営等においては、本校としてのよりよい学校改善（Action）への取組にあたり、職員一人ひとりの取組単位のPDC Aに努めることのできる評価（Check）の結果から、計画（Plan）の継続（定着）又は修正か破棄などの目標を設定し、それを実現するためのプロセスを設計（改訂）することのできる職員のさらなる意識向上に継続して取り組む必要がある。

項目Ⅱ 学校運営について

達成状況

①職務上における「報告・連絡」については、「そう思う」が85.3%であり、組織として概ねの構築が図られている。このことは、組織的な運営を行っていくなかで大事なことである。

②他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっていることについては、「そう思う」が71.4%と昨年度の後期から今年度にかけて、職員間の信頼関係が向上している。

③校舎内外の施設設備の管理、個人情報の保護・情報セキュリティについては、教職員の危機管理意識は高く、現在このことにかかわる問題の発生はない。特に、個人情報の保護・情報セキュリティについては、「そう思う(64.7%)」と、昨年度より教職員の危機管理意識の向上が伺える。

④学校の防災・防犯等では、年度はじめに各教室等へのマニュアル設置と職員会議で説明するのみであるとともに、それぞれの訓練時に再度確認するのみであるため、「そう思う」の比率(28.6%)が低いと考えられる。

⑤校内研究（研修）及び特別支援教育へのかかわりについては、昨年度と同様の結果であり、もう少し積極的な姿勢が望まれる。

改善策

・防災・防犯等での危機管理マニュアルの理解については、今後の定期的な訓練の実施のみならず、各教室等での掲示場所の定期的な確認等から意識と理解の向上を図る。

・校内研究（研修）へのより積極的にかかわるために、夏季休業中の校内研究を低・中・高のブロック研を中心に企画し、グループ参加型を積極的に試み、2学期以降の全体会へとつなげる。

| | |
|-----------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育については、コーディネータが中核となって、校内で連携し児童等へ対応することとなっているが本校においてもその体制に多くの課題がある。そこで、本校としての校内体制が、教職員一人ひとりに見える（分かる）ものとするための取り組みに努める。 |
| 項目Ⅲ 学習指導について | |
| 達成の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ①全校児童の多くが、授業が楽しい及び授業が分かると良好的な回答をしている。このことの一つには、基礎・基本の定着を図る指導や教材教具等を活用した授業の創意・工夫によることとの相関関係が見られる。 ②宿題や家庭学習に対する指導では、学習することへの定着や反復学習へ意を注いでいる。このことは、全学年とも「宿題を忘れずにやっている」と「家庭学習をしている」の「やっている・している」など同様の回答がされている。 ③授業中の質問や発言等を積極的に出させる取組では、教師自身が積極的になってきてはいるが、児童の回答では、授業中の質問や意見等の発言について、特に高学年で、先生に「あまり聞いていない」「聞いていない」や、質問を「あまりしない」「しない」への回答が多くなっている。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、授業が「楽しい」や「分かる」と良好的な回答をしている反面、学年が進むにつれ、質問や発言等について、消極的であることが見受けられる。このことは、一概に授業のあり方によるものとは言い切れない面がある。それぞれの学級の雰囲気であったり、児童本人の性格や資質によるもの、というようにその要因を指導者が的確・適切に把握する中で、指導者自身も授業力等の向上を意識して、個に応じた指導の工夫等を講じていく。 |
| 項目Ⅳ 生徒指導について | |
| 達成の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ①児童の指導上の問題や家庭教育力の諸問題が、多岐に渡っており、低・中・高学年で、それぞれの課題を抱えている。このような状況下ではあるが、教職員が一人で問題を抱え込まず、学年組織を中心とした指導体制で取り組んでいる。このことは、多くの担任が家庭環境との関連の中で、基本的な生活習慣及び規範意識を育む指導を、学校生活でのあらゆる機会を通して指導を重ねている。 ②児童の指導上の諸問題は、学級担任や学校だけで対応できない事が増えている。一人の者が、すべての問題を解決しようと、抱え込むという意識を捨て、周囲の人々等と連携しながらという意識の向上から、「職員間で指導上の課題を共有した対応が行われている」と答えている比率がより高い。 ③児童理解については、児童とのコミュニケーションを積極的に図っていると、半数以上の職員が自己評価している。しかし、児童アンケートでは、「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」という項目に対し、全校児童でみると「あまりいない・いない(26%)」と答えており、学年が進むにつれ増えている。 |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育の一つには、子ども達を社会的に自立した人間に育てるためにあり、児童のアンケートから「早寝・早起き・朝ごはん」「あいさつ運動」「きまりや約束ごとを守る」などの基本的な生活習慣が課題であることから、規範意識（自律）を育む取組は、組織的に対応していくことが重要である。 ・教職員一人ひとりが、日ごろから児童の心身のよりよい発達と成長を援助するため、児童の表情や言動などに応じた声かけに一層心がけ、児童との信頼関係を築いていきたい。また、指導組織を整え、教職員が互いの役割分担を認識し、家庭・地域そして関係諸機関（SC, SSW, 子育て支援、児童相談所など）との連携を築いていきたい。 |
| 項目Ⅴ 地域との連携について | |
| 達成の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ①日ごろより学校からは、教育活動等の情報を、学校・学年・その他のたよりを介して、保護者（家庭）へ発信し、理解等を得て学校への協力をいただいている。そこで、全体的にはAとBの肯定的な評価ではあるが、Aの比率が低い事柄と、CとDの少数意見を真摯に受け止めたい。 ②地域への広報には、ホームページが主媒体であるため、地域の方々からのアクセスがされない限り教育活動等の様子を知ってもらうことができないのが現状である。 |

| | |
|---|--|
| | ③「甲斐っ子安心メール」については、機会あるごとに情報発信している。しかし、携帯メールであることから、保護者からの登録が必要になるため、全保護者の登録は得ていないのが現状である。 |
| 改善策 | ・本校では、保護者（家庭）への教育活動等の情報発信する手段として、紙ベースでのたよりが現在最も有効であると認識している。なお、地域への情報発信となるホームページが有効であるため、その存在について広報することに努めたい。 |
| 項目Ⅵ 学校の特色に関して | |
| 達成の状況 | <p>①授業参観日や学校開放日を定期的実施したが、全学年とも保護者等の参観率は高く、教育活動等への関心の高さが伺える。このことは、今後も保護者等との連携による教育活動等の機会の一つとしてさらなる充実を図っていく。</p> <p>②あいさつ運動の推進による笑顔あふれる学校づくりにかかわる取組については、日ごろから児童へ意図的に指導していることが伺える。また、児童のアンケートから全校児童の多くが、積極的に「地域の人と出会ったらあいさつしている」と答えている。</p> <p>③芝生のグラウンドを活用した特色ある体育活動については、本校が平成14年から校庭が芝生化となってからの特色である。現在でも中休みや昼休みなど、雨天時以外は校庭の芝生上で多くの児童が遊ぶ姿を多く見かける。今後も継続した芝生を活用した体力づくりの取組への提言等を改めて協議していくことが必要である。</p> |
| Ⅲ まとめ | |
| <p>日ごろの教育活動及びその他の学校運営に関する事項については、日常的な活動等に取り組む中で、成果と課題に気づき、職員会議等での議論や、即時的に自己点検・自己評価できるもの（こと）はその場で評価・改善していく、いわゆるスクラップ・アンド・ビルドの観点から、よりよい学校改善（Action）へ取り組むことが大切である。これからは、組織全体に渡るP D C Aから、職員一人ひとりの取組単位のP D C Aに努めることが必要であると感じている。</p> <p>特に、今回の点検・評価では、学校の危機管理にかかわること、また、本年度の経営方針でも示されている生徒指導に関すること及び学力と結びつく授業力向上にかかわることなど学校力を高めたい。</p> | |